

令和7年9月8日

埼玉県武蔵野地域における保全計画に基づく活動状況等の評価
(令和7年度第2回世界農業遺産等専門家会議)

1 評価

貴地域では、地域の農業遺産の保全活動が概ね適切に行われていることが確認できたため、今後も引き続き活動を維持されたい。

2 専門家会議による助言事項

更なる保全・活用に向け、以下の助言事項を参考として今後の保全活動に取り組むことが望ましい。

- (1) 本地域は大都市近郊にありながら、今なお平地林が農業に活用されていることが特色である。周辺地域との関係性も含め、地域内外の非農家が、自分たちの食と関係性を持ちながら農地と関わっていくことも含めた保全計画を検討されたい。
- (2) かつての循環型農業を残しつつ、都市地域に隣接しているという強みを活かし、落ち葉サポーターといった関係者のほかにも、美しい景観を活かしたイベントの開催などにより関係人口の増加に繋がる新しい形を模索していくことが望まれる。
- (3) 実践農家を増やすため、落ち葉堆肥農法が農作物の付加価値向上につながるようにすることが重要。地域内外の人との交流による関係人口の増加や、ネイチャーポジティブ、30by30、自然共生サイトとの連携による地域のブランド力向上がポイントであり、次期保全計画に取り入れることについて検討されたい。
- (4) 萌芽更新を今後どのようにして行っていくか課題解決に取り組むことが望まれる。例えば薪ストーブなどのエネルギー利用としての活用について新たな保全計画の目標とすることも検討されたい。

(以上)